



# 五百旗頭真の大災害の時代

## 新しいまち創造始動

4月下旬、岩手県の三陸海岸被災地を数日かけて訪ねた。

驚いた。ついにその時が来た。この地域全体がうなをあげてまちづくりの土をまきまきりである。こんな区域の国土改造は久しく見なごとなが。

復興構想会議議長であった私が、「率直に言って進ませる」と時の総理に申し上げたのは、大震災の起きた2011年の秋であった。政変に、3月を空襲し、被災地を冬を迎える前に植民地再建を始めることは不可能になった。抗議である。問題は避難所から仮設住宅への移行であり、がれき処理であった。一体いつになれば本格的なまちの再建が始まるのか。

【カテゴリーB】沿岸部被災復興型】津波が中心街に侵入したが、市の一部にとどまり、また概して一階レベルの浸水であり、多くのビルは残っている。役所も存続し、現在のまちを生きかしながら復興する方針のもと、防波堤、防潮堤、グリーンベルト(緑の丘)などを組み合わせた多重防衛を試みる。空き地を整理し、新しい中心街を築く試みもある。宮古市、釜石市、大船渡市などである。

【カテゴリーC】被害抑制迅速復興型】三陸海岸には津波が多いために、立派な防波堤、防潮堤などを備えていたまちが多い。東北では概してそれが効果的であった。洋野町、久慈市、野田村などがその例であり、野田村、田野畑村、岩泉町小本などでは大津波が防潮堤・水門を越えたが、他地域に比べれば被害は限定的であった。30人以上

の犠牲者を出した野田村や田野畑村では、浸水住宅地の内陸部への移転が行われているが、全般にまちの再建はスムーズであると感じた。

【カテゴリーA】全面壊滅型】津波が全面壊滅し、新しいまち創造型、まちが全面的に津波にのみれ、役所のビルすら沈んで、壊滅の憂き目を見ながら、それだけに、根本的に新しい安全なまちを創造しているタイプ。山田町、大槌町、陸前高田市がその典型である。

【カテゴリーB】沿岸部被災復興型】津波が中心街に侵入したが、市の一部にとどまり、また概して一階レベルの浸水であり、多くのビルは残っている。役所も存続し、現在のまちを生きかしながら復興する方針のもと、防波堤、防潮堤、グリーンベルト(緑の丘)などを組み合わせた多重防衛を試みる。空き地を整理し、新しい中心街を築く試みもある。宮古市、釜石市、大船渡市などである。

【カテゴリーC】被害抑制迅速復興型】三陸海岸には津波が多いために、立派な防波堤、防潮堤などを備えていたまちが多い。東北では概してそれが効果的であった。洋野町、久慈市、野田村などがその例であり、野田村、田野畑村、岩泉町小本などでは大津波が防潮堤・水門を越えたが、他地域に比べれば被害は限定的であった。30人以上

の犠牲者を出した野田村や田野畑村では、浸水住宅地の内陸部への移転が行われているが、全般にまちの再建はスムーズであると感じた。

【カテゴリーA】全面壊滅型】津波が全面壊滅し、新しいまち創造型、まちが全面的に津波にのみれ、役所のビルすら沈んで、壊滅の憂き目を見ながら、それだけに、根本的に新しい安全なまちを創造しているタイプ。山田町、大槌町、陸前高田市がその典型である。

【カテゴリーB】沿岸部被災復興型】津波が中心街に侵入したが、市の一部にとどまり、また概して一階レベルの浸水であり、多くのビルは残っている。役所も存続し、現在のまちを生きかしながら復興する方針のもと、防波堤、防潮堤、グリーンベルト(緑の丘)などを組み合わせた多重防衛を試みる。空き地を整理し、新しい中心街を築く試みもある。宮古市、釜石市、大船渡市などである。

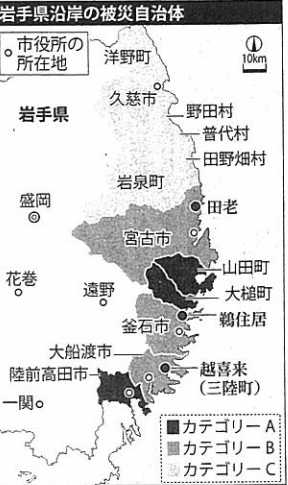
【カテゴリーC】被害抑制迅速復興型】三陸海岸には津波が多いために、立派な防波堤、防潮堤などを備えていたまちが多い。東北では概してそれが効果的であった。洋野町、久慈市、野田村などがその例であり、野田村、田野畑村、岩泉町小本などでは大津波が防潮堤・水門を越えたが、他地域に比べれば被害は限定的であった。30人以上

の犠牲者を出した野田村や田野畑村では、浸水住宅地の内陸部への移転が行われているが、全般にまちの再建はスムーズであると感じた。

【カテゴリーA】全面壊滅型】津波が全面壊滅し、新しいまち創造型、まちが全面的に津波にのみれ、役所のビルすら沈んで、壊滅の憂き目を見ながら、それだけに、根本的に新しい安全なまちを創造しているタイプ。山田町、大槌町、陸前高田市がその典型である。

【カテゴリーB】沿岸部被災復興型】津波が中心街に侵入したが、市の一部にとどまり、また概して一階レベルの浸水であり、多くのビルは残っている。役所も存続し、現在のまちを生きかしながら復興する方針のもと、防波堤、防潮堤、グリーンベルト(緑の丘)などを組み合わせた多重防衛を試みる。空き地を整理し、新しい中心街を築く試みもある。宮古市、釜石市、大船渡市などである。

【カテゴリーC】被害抑制迅速復興型】三陸海岸には津波が多いために、立派な防波堤、防潮堤などを備えていたまちが多い。東北では概してそれが効果的であった。洋野町、久慈市、野田村などがその例であり、野田村、田野畑村、岩泉町小本などでは大津波が防潮堤・水門を越えたが、他地域に比べれば被害は限定的であった。30人以上



約2000個のろうそくで浮かび上がったハートマークと「つなごりをちからに前へ」の文字。陸前高田ふるさと復興応援隊とボランティアらによって作られた。岩手県陸前高田市で15年3月11日、竹内紀国撮影

あるが、19年ラグビーワールドカップが、小中学校の跡地に建設されるスタジアムで開催される予定である。

大船渡市の北部にある越喜来(こきらい)は、この度の津波が最も早く約30分で到来した。この湾奥のまちも全滅したが、やはり奇跡と悲劇があった。この地選出の市議会議員の提案で、小中学校から丘への県道をまたぐ避難橋が前年に完成した。地震の直後、児童と教職員はこの橋を渡って丘を登った。リアス線の三陸駅を経て公民館まで上った下を見れば、津波にのみれている。陸前高田の場合、その人工丘が広大にして高さも平均10以上に及ぶ。地盤の弱い住居は地震にも強いが、今の土木技術は10以上の盛り土を全く問題にしないという。現に重いローラー車がかき上げた丘をたいて回っていた。

三陸沿岸沿いの高速縦貫道路や盛岡-宮古、花巻-釜石の横断道路の規格格化が急がれており、それもこの地にとって希望である。決定的に安全なまちまちが三陸海岸に生まれることは疑いない。問題は、高齢化と人口減少を食い止めるにきわむのまちとなれるか否かである。海の幸はすばらしく、すでに水揚げは回復しているという。ただ水産加工業に必要な労働力が足りないためビジネス拡大は難しいという。機械化やロボット化を含めた企業家精神豊かなビジネスが豊かな海を生かすことが待たれる。ハードが整いつつある今、新しいまちのまちをどうつくるか、ソフトが今後中心課題となる(復興庁、岩手県、沿岸市町村の方々、田村純一・岩手大教授、手塚さや香・釜石市復興支援員はじめ多くの方々からご教示をいただいた。

いおさへ・まこと ひょうご 震災記念21世紀研究機構理事 長・熊本県立大学理事長・日本政治外交